

教育・臨床心理専攻

1. 専修科目, 授業科目, 単位数, 担当者及び主研究内容等

※ 担当者氏名前の○印は, 令和6年度の学生募集担当者を表します。

専修科目	授 業 科 目	単位数	担当者	主研究内容等
教育 実 践 学	教育実践学特別研究Ⅰ	4又 は12	教授 ○勝山 吉章	教育実践に関する研究を, 国内外の古典を中心に, 教育史的・教育思想史的に考察していくことを中心とする。その際, 民俗学や歴史学, 社会学, 経済学等の研究成果も取り入れながら, 教育実践という社会事象を学際的に論究していく。院生に対しては, 一次資料の徹底した講読を求め, 学会での報告を目標としていただく。そして, 共に, 学位論文の作成を目指していきたい。
	教育実践学特論Ⅰ	4		本特論では, 広範な意味における教育実践に関する原典を講読する。ペスタロッチやフレーベル, ヘルバルト, デューイなどの原典を講読することで学校や教師の在り方を探究していくことを目標とする。ただし, 社会人院生等によって日本語講読のニーズがあれば別途考慮していく。
	教育実践学特別研究Ⅱ	4又 は12	教授 博士(教育学) ○高妻紳二郎	教育学研究における制度的・実践的アプローチを主たる方法とし, 内外における教育行政・制度・経営論の理論的・実践的研究を行う。これらの領域に関わる受講者の研究関心, 研究テーマについて, 先行研究の収集・検討を通して, 各自の研究テーマの価値を定位することから始める。そして議論を通して現代教育行政・制度, 学校経営をめぐる諸課題を精緻に分析し知見を得る。なお, 外国語文献も必読とするため, 一定の語学力も求める。
	教育実践学特論Ⅱ	4		本特論では教育実践をめぐる様々な視点から, 現下の教育状況について, その促進要因や規定要因について深く考察を進める。学校の教育活動の現状はもとより, 教育行政の具体的な展開などについて, 国内外の実践事例や各自収集した素材を基に協議する。
	教育実践学特別研究Ⅲ	4又 は12		教育社会学は, 教育をめぐるさまざまな「事実」について, 社会学の方法論を用いつつ明らかにしようとする学問である。特別研究では, 教育社会学の立場から, 教育現象および教育実践の探究力を培うことをめざす。具体的には, (1)自らの問題関心を, 教育社会学の理論および研究方法論を踏まえ研究計画として具体化する。(2)研究計画にもとづき, 実証的調査研究・分析の方法論および結果を検討する。(3)研究の成果を学会報告および論文等で公表し, 世に問う。
	教育実践学特論Ⅲ	4	教授 博士(教育学) ○藤田由美子	教育実践に関して, 教育社会学の立場より, 批判的思考力を獲得することをめざす。具体的には, 博士論文をもとに刊行された学術図書の評議会や教育社会学に関連する英文献の輪読を行う。これらの活動により, 教育社会学の理論および研究方法論について理解を深めるとともに, 洋文献の読解力を培い, 学術論文への批評能力を高める。
	教育調査論特論	4	教育調査の方法論および実際を, 受講生自身の研究計画に即して具体的・実践的・発展的に学ぶことによって, 教育調査の本質的理解をめざす。授業では, 教育調査の意義および調査の倫理について理解を深めた上で, 具体的な調査の手順, すなわち調査方法の選択・調査および分析の方法論・研究結果公表等について, 各自の研究計画を手がかりにより詳細な検討を行う。	
臨 床 心 理 学	臨床心理学特論Ⅰ	4	教授 松永 邦裕	本講義では, 子どもを対象とした心理臨床において, その支援の有効性と課題について考察する。乳児期から青年期までの子どものパーソナリティーや対人関係の発達の視点から, 不登校, 発達障害, 被虐待等の最近の様々な子どもの問題について検討する。また, 臨床心理学的な支援として, 遊戯療法や環境療法, 認知行動的アプローチなどの子どもの心理臨床的援助についてもその有効性と課題を明らかにし, 今後の可能性について考察する。
	臨床心理学特別研究Ⅱ	4又 は12	教授 博士(人間環境学) ○村上久美子	本授業では, 臨床心理学(主として, メンタルヘルス, 高齢者臨床, 学校臨床)に関する各自の研究テーマについて, 研究成果の公表を目標に指導を行っていく。受講生がこれまで積み上げてきた様々な知見や学術的な成果を土台として, 研究課題の設定, 研究倫理, 研究をめぐる学術的・社会的貢献, 研究課題に則った研究の実現可能性, アカデミックライティングの確認等の観点から支援していく。
	臨床心理学特論Ⅱ	4		本授業では, 臨床心理学実践事例(主に, 教育, 福祉, 医療分野)をもとに, 様々な視点から臨床心理学の専門性について考察を深める。各自がレビュー等で蒐集してきた事例について協議を深め, そこにどのような臨床心理学の知が内在化されているのかを整理しながら, 今後更に社会に還元できる心理専門職の知について協議・展開する。

専修科目	授 業 科 目	単位数	担当者	主研究内容等
臨 床 心 理 学	臨床心理学特別研究Ⅲ	4又 は12	教授 徳永 豊	臨床心理学及び特別支援教育学の専門なテーマについて、オリジナリティのある研究計画を構成し、実践研究や調査研究、実験研究を展開する。これらの過程を通じて、各自の研究テーマ、研究計画、資料等の検討を重ねていくことで論文を作成する。
	臨床心理学特論Ⅳ	4		臨床心理学及び特別支援教育学の領域において、乳幼児の発達を踏まえた臨床心理学的な援助及び教育学の指導に関して、その内容・方法についてのモデルを検討する。関連する研究レビューを踏まえて、代表的な研究を紹介しながら協議をすすめる。
	臨床心理学特別研究Ⅳ	4又 は12	教授 ○田村 隆一	臨床心理学における面接技法（主に個人療法）や援助に関する研究を進めるため、研究に必要な課題について議論・検討を行う。研究テーマの設定、先行研究のレビュー、新しい心理学的概念の提唱や構築、新たな研究手法の開発や改善、先進的なデータの分析方法の検討などを中心として、研究をまとめ上げていく。研究に関わる臨床心理学的援助活動の開発や工夫も行う。
	臨床心理学特論Ⅲ	4		臨床心理学における個人面接法に焦点をあて、最近の理論と注目点、技法の課題を明確にする。とくにフォーカシング指向心理療法を取り上げ、臨床適応上の課題を考察する。また、他の精神分析、行動療法などのアプローチとの、技法論について詳細な比較検討を行うとともに、アプローチの統合について論じ、臨床心理学における理論と技法のもつ今後の可能性とその限界について理解を深化させる。

その他の科目（担当者未定科目）

授 業 科 目	単位数
教育人間学特論	4
臨床心理学特別研究Ⅰ	4又 は12

2. 履 修 方 法

- ① 学生の標準修業年限は3年とし、所定の研究指導科目について、合計12単位以上を修得しなければならない。
- ② 学生は一つの特別研究を選定し、これをその学生の専修科目とする。その専修科目を必修とし、12単位を修得しなければならない。
- ③ 特別研究科目は3年間12単位の履修を原則とするが、専修科目としない場合は、1年間4単位の履修も認めることがある。
- ④ 専修科目の研究指導（特別研究）担当者を当該学生の指導教員とし、学位論文の作成、その他研究一般について、その指導を受けるものとする。
- ⑤ 博士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。